

浦ノ内中学校 第2学年国語科学習授業案

平成26年6月11日水曜日 第5校時
2年 生徒数16名
授業者

1 単元名

言葉「文法の窓1」 敬語 (「新編 新しい国語2」 東京書籍)

2 単元観

(1) 教材観

敬語は、話し相手や話題に上った人物に対する敬意を表す表現である。実際に敬語が用いられる場面を考慮すると、敬語とは、「相手との距離を意識する言葉」ともいえる。しかし、生徒の中には、日常生活において敬語を使う必要性をほとんど感じないまま（つまり、相手との関係を特に意識しないまま）過ごしている生徒もいると考えられる。そのため、「自分では決して失礼なことを言ったつもりはなくても、敬語が使えないことで、相手に失礼な感じを与えてしまう」ということも起こりえるのである。そして、職業体験などの体験学習や、受験、ひいては就職活動など、社会と接するときになって初めて敬語の重要性を感じるようになる。

敬語への認識を深めることは、人間関係への認識を深めることともいえる。とするならば、生徒に敬語を「生きた言葉」として認識させるためにも、授業では、日常生活のどういう場面で、どういう相手に対して使うかをまず考えさせることから始めたい。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、日頃からあまり敬語を使う機会がないと思われる。そのために、生活の中で適切な敬語の使い分けが不十分な状態であると感じられる。まもなく職業体験を控えており、生徒たちにとって時期的にも意識をして学ぶことができる良い機会だと考えられる。

(3) 授業観（キャリア観）

生徒にとって敬語を使ううえでのいちばん身近な例としては、学校の「先生」や「先輩」に対するものがあげられる。もちろん、学校生活の実態によって、敬語を使う場合と使わない場合はさまざまだが、それぞれの実態に合わせた具体例をもとに敬語の役割を考え、次にその例を社会に広げていくことで、敬意の中には、「相手の立場や配慮」や「相手を思いやる心遣い」なども含まれていることも気付かせたい。

また、この授業での活動によって敬語に対する認識を深めることにより、敬語に対する抵抗をなくす契機にしていきたい。また、この学習を通して適切な言葉の使い方をしっかり認識させ、TP0に合わせた言葉の使い方や適切な表現の仕方を身につけさせることによって、本校の研究主題ならびに中学校区の大きなテーマである表現力の育成につなげたい。

3 単元の目標

○教科の授業目標

- 敬語の種類や使い方について理解をし、生活の中で適切に使えるようにする。

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ (ア)]

○キャリア教育視点での目標

- 敬語を適切に使えるようにすることで、TP0にあわせたコミュニケーションスキルを身につける。

[人間関係形成・社会形成能力]

[社会性の育成]

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	言語についての知識・理解・技能
◎敬語に関心を持ち、働きや種類を理解しようとする。 ○友だちと協力をして、発言に取り組もうとする。	◎尊敬語・謙譲語・丁寧語という敬語の種類やそれらの使い方について理解している。 ○相手や場面に応じて、どの種類の敬語を用いればよいかを理解している。 [伝・国 イ (ア)]

5 授業と評価の計画（全3時間）

時	主な学習活動	国語への関心・意欲・態度	言語についての知識・理解・技能
1	・教科書を読んで敬語の働きと種類について理解する。	○敬語に関心を持ち、働きや種類を理解しようとしている。 (評価方法) 観察	○敬語の働きと、3つの種類を理解しようとしている。 (評価方法) 発言・ノート
2	・文法解説を読んで、敬語の種類や使い方について理解を深める。 ・「練習問題」に取り組む。	○敬語の種類や使い方を理解しようとしている。 (評価方法) 観察・ノート	○尊敬語・謙譲語・丁寧語という敬語の種類や、敬語の使い方について理解している。 (評価方法) 発言・ノート
3 本時	・敬語の正しい使い方について理解の定着を図る。 ・相手や場面に応じて、どの種類の敬語を使えばよいかを理解する。	○ワークシートで敬語の正しい使い方について、理解をしようとしている。 ○班で協力をして、敬語の使い方を考えようとしている。 (評価方法) 観察・ワークシート	○敬語の正しい使い方を理解している。 ○相手・場面に応じて、どの種類の敬語を用いればよいかを理解している。 (評価方法) 観察・ワークシート

6 本時の授業（3／3）

(1) 本時の目標

○教科の目標

- ・敬語の正しい使い方について、理解の定着を図る。
- ・相手や場面に応じて、どの種類の敬語を使えばよいかを理解する。

○キャリア教育視点での目標

- ・TP0にあわせて、適切に敬語を使って表現できる。

(2) 評価規準ならびに評価方法 ※ () 内が評価方法

○国語への関心・意欲・態度

- ・ワークシートで敬語の正しい使い方について、理解しようとしている。
- ・班で協力をして、敬語の使い方を理解しようとしている。

(観察・ワークシート)

○言語についての知識・理解・技能

- ・敬語の正しい使い方を理解している。
- ・相手・場面に応じて、どの種類の敬語を用いればよいかを理解している。

(観察・ワークシート)

(3) 展開

	学習活動	授業の留意点 ○…教科の留意事項 ☆…キャリア教育視点での留意事項	評価規準 (評価方法)
導 入	・前時の学習を想起し、本時のめあてを確認する。	○学習内容の確認をする。	
	めあて 敬語を用いて日常生活で相手に失礼にならないようにする		
展 開	・敬語を使う際の注意について確認をする。 ・ワークシートで敬語の使い方の理解を深める。 ・日常生活でのいろいろな場面での敬語の使い方について、ワークシートを使って班で取り組み、敬語を活用できるように練習をする。	○敬語の使用上の注意 ①身内のものには尊敬語を使わないこと。 ②尊敬語と謙譲語を間違えないこと。 ③敬語を使いすぎないこと。 (上記の3点を押さえさせる。) ○および☆ 正しい敬語の使い方が理解できているかどうかを、ワークシートを使い確認する。 (近くの生徒と確認をさせる。) ○班で協力をして話し合いができるように支援をする。	・敬語の正しい使い方を理解している。…言語についての知識・理解・技能(机間指導による観察・ワークシート・発言) ・班で協力をして敬語を理解しようとしている。…言語についての知識・理解・技能(机間指導による観察・ワークシート・発言)
ま と め	・ワークシートを利用し、知識の定着をはかる。 ペアで職業体験の実演をする。	☆敬語が人間関係をスムーズにする潤滑油の役割をしているからこそ、正しい敬語の使い方を身につける必要があることを確認する。	